

森林技術・支援センター の取組紹介

はじめに

森林技術・支援センターは、全国7箇所にある森林管理局に一カ所ずつあり、近畿中国森林管理局では岡山県新見市に設置されています。

森林・林業に関する技術開発と、試験・研究の成果を広く民有林へ普及することで、わが国の**森林・林業の再生に貢献**することを目標としています。

近年は林野庁が進める低コスト育林技術やICTを活用した森林管理に関する技術開発等を推進しています。

森林技術・支援センターのHPはこちら→
http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/index.html



森林技術・支援センターへのアクセス
新見ICから車2分、JR新見駅から徒歩15分



庁舎外観はヒノキの切株の形をしています♪
職員はたった6人ですが、いつも協力して
課題に取り組んでいます。



技術開発の取組

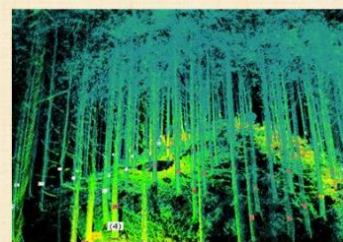
伐採から再生林・保育に至る収支をプラス転換する「新しい林業」の着実な推進に向け、林業の低コスト化に向けた技術開発を推進しています。

例えば、これまで当センターが実施してきた技術開発試験は、コンテナ苗植栽試験、早生樹試験（センダン、コウヨウザン）、エリートツリー試験、列状間伐試験、針広混交林試験、里山広葉樹資源の有効活用及び天然更新技術に関する試験、ドローン・地上レーザ計測機器などICT機器活用による森林資源の効率的な森林管理等があります。

現在は、これらのうち、早生樹試験（センダン、コウヨウザン）、里山広葉樹資源の有効活用及び天然更新技術に関する試験など9つの技術開発課題（令和4年度現在）に継続して取り組み、各種実証データの収集・分析等を行っています。



里山広葉樹の販売



スマート林業



早生樹（コウヨウザン）

民有林への支援（森林・林業技術視察プログラム）



私達のご案内します！

国有林が取り組む技術開発の成果を民有林に普及するため作成した「**森林・林業技術視察プログラム**」に基づき、職員が技術開発試験地等をご案内いたします。

例えば、一貫作業システム、列状間伐等の造林・育林の低コスト化技術やドローン等のICT機器を活用した森林管理をご覧いただけます。

詳細は当センターHP内「森林・林業技術視察プログラム」をご覧ください。ご要望に応じて視察コースのアレンジも可能です。

当センターHPの森林・林業技術視察プログラムに関するページはこちら→
https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/shisatsu_program.html



大学や試験研究機関等と連携して、共同研究、現地検討会、講師派遣、研修の受け入れといった、様々なかたちの普及及び支援活動を実施しています。



普及・支援 | 林業大学校等

林業大学校、高校等の地域の担い手として期待される学生に森林・林業に関する講義やICT機器を活用した森林調査等について指導しています。また、職場体験プログラムの受け入れも行っています。



普及・支援 | 地方自治体、公共団体等

地方自治体、公共団体等のご要望に応じ講義や技術指導を行っています。また、出張講座や研修会等も受け賜ります。



普及・支援 | 現地検討会

試験研究機関等と連携し、府県、市町村の林務担当者や森林組合、事業体等を対象に現地検討会を開催し、国有林の造林・育林の低コスト化等に関する技術を普及しています。



普及・支援 | 職場内研修

局主催の研修や森林管理署等のOJTといった職場内研修で講師やスタッフとして活動しています。



終わりに

国内の人工林が本格的な利用期を迎え、国産材の供給量が着実に増加しています。

一方、林業技術者の人手不足、森林の高齢化、災害の増加など課題も多くあるのが現状です。これらに対応するため、私共の組織では日々技術開発に取り組んでいます。

成果は現地検討会や研修会、出張講座を通して、民有林に広く普及することとしています。

また、技術開発試験地を一般の方々にもご覧いただくための森林・林業技術視察プログラムをHPで公開しています。ご興味のある内容については、職員がご案内させていただきますので、お気軽にご相談ください。

最後に、当センターでは引き続き、森林・林業の低コスト化の実現に向けて、新たな技術開発と普及に取り組んでまいります。



にちなん中国山地林業アカデミー現地研修（2023.11）

令和 5 年 11 月 7 日（火曜日）、にちなん中国山地林業アカデミーの学生 10 名、教職員 1 名の皆様が、6 月に続き今年度 2 回目の実習のため来所されました。

近畿中国森林管理局では、地域と連携した技術の普及に対応するため、将来の林業経営者や林業従事者を育成するにちなん中国山地林業アカデミーと協定を締結し、学校からの意見や要望等を聴きながら、講義や現場実習への協力に取り組んでいます。

今回 2 回目の実習では、広葉樹林の施業時の課題と販売の困難さ、スマート林業などの要望を受け、当局で実施した「里山広葉樹林活用・再生プロジェクト」の取組や、地上レーザースキャナ（OWL）などの ICT 機器を活用した森林の計測方法に関する講義や現地での実習に取り組みました。

学生の皆様からは、ササ地での更新の難しさや、施業時の課題に対する色々な質問が出され、地上レーザースキャナ（OWL）での実習では、目測と機器との計測差について、予想との違いに少々驚きの様子が見られたなど、幅広い森林・林業に関する技術・知識に触れていただきました。

森林技術・支援センターでは、今後も地域の森林・林業技術の普及、人材の育成に向け、引き続き、学校との連携と協力に取り組んで参りたいと思います。



現地検討会を開催しました。

令和 5 年 9 月 21 日（木曜日）、22 日（金曜日）の 2 日間、岡山県新見市内の国有林を中心に民有林関係者等を対象とした現地検討会を開催しました。

この現地検討会は、平成 25 年度から近畿中国森林管理局と国立研究開発法人 森林総合研究所 関西支所と、本年度については岡山森林管理署とも共催し、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の展開に向け「伐採と再造林の一貫作業システム」によるコストの低減」をテーマに開催しました。 現地検討会には、府県、市町村の林務担当者や森林組合、事業体など 2 日間で、延べ 160 名以上の森林・林業関係者が参加し、関心の高さが伺われました。

1 日目は、岡山県新見市内の会場で、国、研究機関のそれぞれの立場から「新しい林業」の展開に向け、再造林の促進施策、一貫作業での再造林コストの低減、一貫作業における下刈りの省力化、スギコンテナ苗の育成と初期成長、シカ侵入防止策の管理技術の課題について 5 つの講演が行われ、その後、参加者の皆様方と活発な意見交換が行われました。

2 日目は、岡山県新見市の天木山国有林において、戸川木材が一貫作業を行っている実際の現場を訪れ、タワーヤード、プロセッサ、チップパーによる伐倒木の処理実演及びドローンによる苗木運搬実演の見学、コンテナ苗の植栽体験に取り組んでいただきました。森林技術・支援センター職員もコンテナ苗の植栽体験の講師を務め、様々な体験をされた参加者の皆様方からたくさんのご質問をいただき、たいへん有意義な時間となりました。

森林技術・支援センターでは、今後も国有林のフィールドを活用した現地検討会や国有林が取り組む技術開発の成果を民有林に普及するために作成した「森林・林業技術視察プログラム」等を活用し、森林・林業に関する技術を普及し、地域の森林・林業の発展に貢献する取組を継続していきます。



学生の職場体験プログラムを受け入れました。

令和 5 年 9 月 28 日（木曜日）から 9 月 29 日（金曜日）までの 2 日間、当所において大学生 2 名を職場体験プログラムの実習生として受け入れました。

職場体験プログラムは、近畿中国森林管理局における行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を醸成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

2 日間の職場体験では、近畿中国森林管理局の造林・育林の低コスト化の取組紹介やコンテナ苗植栽体験、当所が取り組む里山広葉樹林の活用・再生、早生樹コウヨウザン、列状間伐に関する技術開発試験、地上レーザースキャナ、ドローンなどの ICT 機器を活用した森林調査など民有林関係者支援のために作成した「森林・林業技術視察プログラム」に基づく普及支援などに関する業務を体験していただきました。季節外れの暑いなかでのコンテナ苗植栽体験にも取り組んでいただき、学生の皆様は慣れないなかでの職場体験でしたが、真剣な様子で業務に取り組む姿がとても印象的でした。

参加した学生の皆様からは、「魅力的な仕事であると感じた」、「最先端の技術を学ぶことができてとても勉強になった」などのコメントをいただきました。

参加された学生の皆様の今後のさらなるご活躍を期待しています。

森林技術・支援センターでは引き続き職場体験プログラムによる学生の受け入れを行っていく予定です。



出雲市の現地研修を受け入れました。

令和 5 年 7 月 7 日（金曜日）に、出雲市職員 5 名の皆様が来所され、「森林・林業技術視察プログラム」に基づく現地研修を行いました。

今回の現地研修は出雲市が今後、本格的に主伐・再造林を進めるなかで再造林樹種の選択肢の一つとして早生樹（センダンやコウヨウザン）を検討できないか、また、里山林の整備を如何に進めていくかの課題を検討するために来所されました。



積極的に質問をされる市職員の皆様

現地研修では、当局が取り組む早生樹（センダン）、中国地方の里山広葉樹林を製材用として付加価値の高い用途に活用する方法を探るとともに、伐採後の天然下種更新に試験的に取り組む「里山広葉樹林活用・再生プロジェクト」の現地を見学していただき、技術開発の目的や意図等を説明しました。

当日は暑いなかでの現地研修となりましたが、参加者の皆様からは様々な質問が出されるとともに、国有林の取組を見学し今後、主伐・再造林を進めていくうえでの課題解決に向け非常に参考になったなどのご意見をいただき、有意義な意見交換の場となりました。

森林技術・支援センターでは、引き続きこのプログラムを活用しながら市町村など民有林関係者の技術的支援を積極的に行っていきますので、視察のご希望等がございましたらお問い合わせください。



早生樹センダン（三光山国有林）



里山広葉樹林の活用・再生（釜谷国有林）